

番号	学校名 大分県立大分南高等学校
----	-----------------

令和2年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第3年次）（概要）

1 研究開発課題名	九州から届け！！「福祉」南風プログラム開発 ～ジェネラリストの視点をもつ地域を支える社会福祉リーダーの育成～
2 研究の概要	生徒が将来、地域包括ケアシステムの中核を担うジェネラリストの視点をもつ社会福祉リーダーになることを目指した「『福祉（しあわせ）』南風プログラム」の開発をとおして、社会福祉の発展を担う職業人を育成し、『ジェネラル・ケア・ティーチャー』として福祉力を発信していく。プログラムでは4つのプロジェクト活動（『先進プロジェクト』『連携プロジェクト』『マインド育成プログラム』『発信力プロジェクト』）をとおして、先進的な専門性を高め、豊かな創造性・人間性を身に付け、確かな主体性を育むことで社会福祉の発展を担う職業人を育成する。このような取組を通して、ジェネラリストの視点（高度で総合的な知識・技術と経験、マネジメント能力と改革・改善力）をもつ社会福祉リーダーとしての意識醸成につなげていく。
3 令和2年度実施規模	福祉科3年生（79名）を対象として実施
4 研究内容	○研究計画（指定期間満了まで。5年指定校は5年次まで記載。）
第1年次	<p>■先進プロジェクト</p> <p>①災害時における福祉支援を学び、介護福祉士に求められる役割を理解する。</p> <p>②介護ロボットについての講義や先進施設への視察等から、その現状と意義について理解する。</p> <p>③コミュニケーションロボットを活用した「利用者とのコミュニケーション技術」を習得し、介護実習施設で実践することで、その有用性について考える。</p> <p>④先進的な認知症介護の考え方や方法を理解し、技術を活用できる力をつけることで、介護実習等で介護支援技術の実践力を向上させる。</p> <p>⑤「コミュニケーション英語Ⅰ」の授業の教材として、大分国際車いすマラソンでのボランティア活動の場面を想定して、英語力を向上させる。</p> <p>■マインド育成プロジェクト</p> <p>①サーバントリーダーシップ等の講義、演習等から社会福祉リーダーとして求められる資質・能力を理解する。</p> <p>②認知症サポーター養成講座を受講し、認知症への理解を深める。</p> <p>■発信力プロジェクト</p> <p>①介護実習施設職員を対象とした「コミュニケーションロボット活用・介護技術講座」を企画・運営し、介護ロボット等の有用性を施設職員と共に検証する。</p>
第2年次	<p>■先進プロジェクト</p> <p>①「避難所体験学習」を通し、介護福祉士として求められる役割について考える。</p> <p>②介護ロボット等を活用した「抱え上げない介護技術」を習得し、介護福祉施設で実践することで、介護技術力を向上させる。</p> <p>③福祉先進国（デンマーク）を視察することで、高齢者の福祉と自立を支援する政策や、アクティブ・エイジングのプログラム等への理解を深め、これからの社</p>

	<p>会福祉の発展を担う人材としての資質を高める。</p> <p>④「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業の教材として、介護支援技術での場面を想定して、英語力を向上させ、実践力を高める。</p> <p>⑤医療・福祉英語検定（４級）合格を目指す。</p> <p>■連携プロジェクト</p> <p>①介護実習中に実施する「個別援助計画Ⅰ」を大学生との多職種協働学習で作成することで、ニーズに応じた支援の方法に気づくなど発想力を身につける。</p> <p>②地域の高齢者を対象に校内デイサービスを実施することや、社会福祉協議会等からの講義等を通して、地域の福祉課題について理解することで、地域包括ケアシステムにおける介護福祉士の役割について考える。</p> <p>■マインド育成プロジェクト</p> <p>①サーバントリーダーシップ等の講義、演習等から社会福祉リーダーとして求められる資質・能力を理解する。</p> <p>②認知症キャラバン・メイトを目指して、認知症サポーター養成講座に参加することで、校内・地域の認知症理解度を高めるための工夫を考える。</p> <p>■発信力プロジェクト</p> <p>①「『福祉（しあわせ）』南風プログラム」をまとめ、「福祉教育フェスティバル」を企画・運営する。</p> <p>②「『福祉（しあわせ）』南風プログラム」の映像等による記録を編集することで、介護福祉人材のイメージアップにつながる情報発信を目指して企画力・運営力・伝える力を身につけていく。</p>
第3年次	<p>■先進プロジェクト</p> <p>①介護ロボット等の実践から、介護従事者の負担軽減、介護職場のイメージアップにつながる有用性について研究を深め、発表をする。</p> <p>②「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業の教材として、介護支援技術の場面を用いて、英語力を向上させ、実践力を高める。</p> <p>③大分国際車いすマラソンでのボランティア活動を通して英語力を活用し、実践力を高める。</p> <p>④医療・福祉英語検定（３級）合格を目指す。</p> <p>⑤大分県内在住の外国人留学生に「福祉の困り」「海外の福祉事情」等を聞き取り、会話力、課題解決力を高める。</p> <p>■連携プロジェクト</p> <p>①介護実習中に実施する「個別援助計画Ⅱ」を大学生との多職種協働学習で作成することで、個別援助に係る課題解決力を身につける。</p> <p>②地域の福祉課題の解決策を考え、地域の居場所づくりを校内で実践することで、介護福祉力を高めるとともに観察力、発想力、課題解決力を身につける。</p> <p>③福祉系高校生との交流学习会で、各校の地域活性化の取組を発表、交流を通して、地域の福祉力を高める資質・能力を身に付け、将来のネットワーク作りを見通した交流活動とする。</p> <p>■マインド育成プロジェクト</p> <p>①死生観・倫理観についての講義、演習から終末期のこころのケアを理解する。</p> <p>②認知症キャラバン・メイトとして、地域の福祉力向上を目指して、認知症予防体操を企画・開発し、校内・地域での認知症サポーター養成講座で普及活動を行う。</p> <p>■発信力プロジェクト</p>

- ①介護実習施設職員を対象とした南高生地域福祉講座Ⅲ「介護支援ロボット活用・介護技術講座」を企画・運営し、介護ロボット等の有用性を施設職員と共に検証する。
- ②南高生地域福祉講座Ⅱ「福祉防災教室」を企画・運営することで、災害時の福祉支援力を高める。
- ③認知症キャラバン・メイトとして、地域の福祉力向上を目指して、学んできた認知症ケアメソッドを活用して、地域の小中学校や公民館での南高生地域福祉講座Ⅳ「認知症サポーター養成講座」を企画・運営し、伝える力を身につける。
- ④「おおいたの福祉力」を提言するために、各プロジェクトの取組をまとめ、提言集を作成し、連携機関等へ配布する。
- ⑤「『福祉（しあわせ）』南風プログラム」をまとめ、「福祉教育フェスティバル」を企画・運営する。
- ⑥「『福祉（しあわせ）』南風プログラム」の映像等による記録を編集することで、介護福祉人材のイメージアップにつながる情報発信を目指して企画力・運営力・伝える力を身につける。

○教育課程上の特例（該当ある場合のみ）なし

○令和2年度の教育課程の内容（令和元年度教育課程表を含めること）

別紙資料

○具体的な研究事項・活動内容

■先進プロジェクト 先進的な専門性（幅広い知識・高度な技能）

1. 災害時の福祉支援力体験学習

○避難所運営について学ぶ～避難所Hugの活用～

目的・内容： 避難所Hugの活用をとおして、災害時の災害弱者の支援について、介護福祉士として求められる役割について考える。

2. 介護ロボット等の有用性研究

○大分南高校オリジナル「ノーリフティングケア（簡単な介護技術）」パンフレット作成

目的・内容： これまで学んできたノーリフティングケアを、より多くの方に知ってもらい、普及を進めるために、動画付きのパンフレットを作成。

3. 認知症ケアメソッドの研究

○福祉を考える映画観賞会「僕とケアニンとおばあちゃんたちと」

目的・内容： 国内外から視察や取材が絶たない、日本で今最も注目を集める介護施設の日常のドキュメンタリー映画を視聴することで、介護福祉士の仕事に誇りをもち、認知症介護の考え方や方法、技術を身に付けさせる。

4. 外国人支援の「Welfare English」習得学習

①海外からの技能訓練生からの聞き取り調査

目的・内容： 外国人介護職員を雇用できる制度の概要と雇用状況を理解し、本校で取り組む「外国人支援のWelfare English」習得学習に活かす。

②大分県内在住の外国人留学生に聞き取り調査をリモートにて実施

目的・内容： 大分県内在住の外国人留学生に、「福祉の困り」や「海外の福祉事情」を聞き取り、会話力、課題解決力を高める。

③「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業にて「Welfare English」を習得し、医療・福祉英語検定3・4級合格（NPO 法人医療・福祉英語検定協会）をめざす。

受験者数（3年福祉科全員）： 3級受験 58名 4級受験 21名

④「やさしい日本語」リーフレット作成

目的・内容 : 日本在住の外国人とのコミュニケーションには「やさしい日本語」が有効であり、その研究成果を普及するために作成。

■連携プロジェクト 豊かな創造性（観察力・発想力・課題解決力）

1. 大分大学福祉健康科学部との多職種協働学習

目的・内容 : 2年次の介護実習中に実施したアセスメントに基づき、利用者の個別援助計画を大学生との協働学習によって作成することで、利用者のニーズに応じた支援方法に気付くなどの発想力を身に付ける。

2. 地域の福祉課題解決学習

①介護施設等地域との交流

目的・内容 : 新型コロナウイルス感染拡大の影響で新しい生活様式が余儀なくされたが、少しでも地域や介護実習施設との交流をもてたらと思い、手紙やポスター等をプレゼンとした。

- ・施設職員や利用者へ手紙を書く。壁面装飾を作成し、実習施設へ贈る。
- ・手洗いや3密を防ぐ啓発ポスターを作成し、施設や小中学校へ贈る。

②民生委員同行訪問

目的・内容 : 地域の民生委員に同行して高齢者宅を訪問して困りごとなどを直接聞き、本校生徒自作の日めくりカレンダーをプレゼントして交流をはかる。

3. 福祉系高校との地域福祉活性化交流学習

目的・内容 : 中津南高校耶馬溪校の生徒との交流学习をとおして、地域の福祉を高める資質・能力を身に付けるとともに、地域の社会福祉リーダーを目指す。

■マインド育成プロジェクト 豊かな人間性（多様性を受容できる力）

1. 死生観・倫理観育成セミナー（外部講師による講義）

目的・内容 : 終末期の経過の特徴や利用者の心理面と家族の思いやりを知り、それに応じた介護の方法を学ぶ。また、地域とのかかわりや医療との連携についても理解する。

2. 認知症予防体操の企画・開発・普及

目的・内容 : 認知症の理解者を増やすために、生徒自らが認知症に関する確かな知識・技術を身に付け、認知症予防体操を開発し、普及に努めることにより、地域の福祉力向上を目指す。

普及のため、「認知症予防体操」パンフレット（動画付き）を作成。

■発信プロジェクト 確かな主体性（企画力・運営力・伝える力）

1. 南高生地域福祉講座Ⅳ「認知症サポーター養成講座」企画・運営

目的・内容 : 認知症キャラバン・メイトとして地域の福祉力向上を目指して、認知症ケアメソッドを活用し、地域の小中学校等での南高生地域福祉講座Ⅳ「認知症サポーター養成講座」を企画・運営する。

対象者 : 判田小学校4年生、判田中学校3年生、本校福祉科1年生、普通科3年生

2. 南高生地域福祉講座Ⅴ「地域ふれあい活動」企画・運営

目的・内容 : 南高生地域福祉講座①「認知症を正しく知ろう」②「災害支援講座」を企画。運営することで、地域の福祉力向上に努める。

対象者 : 地域住民

3. 南高生地域福祉講座Ⅵ「ノーリフティングケア講座」の実施

目的・内容 : 介護技術の向上のため、最新の技術指導を現場の介護職員から学ぶと同時に、これまで学んできた「ノーリフティングケア」を介護職員に伝える。

対象者 : 介護福祉士会

4. 南高生地域福祉講座Ⅶ「楽しい福祉講座」企画・運営

目的・内容 : 福祉講座を開くことにより、企画力、運営力、伝える力を身に付けさせ、確かな主体性を育成する。また、受講者が「福祉」について考える機会をつくることで、意識の醸成につなげる。

対象者 : 本校普通科1, 2年生、本校福祉科1, 2年生、判田中学校2年生

5. 全国産業教育フェア大分大会2020参加

目的・内容 : これまでの取組について発表することで、多くの方々に知ってもらう機会とし、介護の仕事へのイメージアップにつなげる。
SPH発表、リモート協議、介護技術発表を実施

6. SPH福祉教育フェスティバル(成果発表会)

目的・内容 : 「SPH福祉教育フェスティバル」を実施することで、企画力、運営力、伝える力を身に付けさせ、確かな主体性を育成する。また、関係施設や地域の方々に本校福祉科の取組を知って頂く機会とする。

5 研究の成果と課題

○研究成果の普及方法

1. 「南高生地域福祉講座」の取組

講 座	回数	参加者数
災害支援について学ぶ	8	212
介護ロボット(チャピット)を使ってみよう	7	168
簡単な介護技術講座(ノーリフティングケア)	7	147
認知症サポーター養成講座	7	621
認知症予防体操	7	1053
地域の福祉課題について考えよう	1	9
ミニデイサービス	4	77
やさしい日本語	6	143
合計		2430

2. 「発信力プロジェクト」の取組

- (1) 「ノーリフティングケア」「認知症予防体操」「やさしい日本語」パンフレット作成
- (2) 学校ホームページによるSPH研究の取組: 13回更新
- (3) Youtube(大分県教育庁チャンネル)にて発信: SPHシリーズ5回(1月13日現在)
5846回視聴
- (4) 新聞報道回数: 3回(H30年度: 6回、R元年度: 11回)
- (5) SPH福祉教育フェスティバル 県内外福祉系高校のリモート参加
福祉系高校生徒参加者数 152名
- (6) 「おおいたの福祉力」提言
参加者 : 大分県副知事、大分県福祉保健部長、大分県高齢者福祉課長
大分県教育委員会教育長、教育次長、高校教育課長等

○実施による効果とその評価(文科省共通的な評価指標による調査結果平均値~各事業後に実施)

1. 本時の授業の積極的に取り組むことができ、福祉の勉強をさらに頑張ろうと思った

	思う	どちらかと言えば思う	どちらかと言えば思わない	思わない	未回答
平成30年度	67.9%	30.0%	2.1%	0.0%	0.0%
令和元年度	66.2%	32.5%	1.1%	0.1%	0.1%
令和2年度	85.4%	14.2%	0.3%	0.0%	0.1%

◎3年次になって、福祉の勉強に対しての学習意欲がさらに高まっている。グループ学習により主

体的に学ぶ機会が増えたため、学習意欲が向上したと考えられる。

2. 課題に対して解決方法を自分で考え、行動する力が高まった

	思う	どちらかと言えば思う	どちらかと言えば思わない	思わない	未回答
平成30年度	48.2%	48.2%	2.3%	0.2%	0.1%
令和元年度	53.5%	43.9%	2.3%	0.2%	0.1%
令和2年度	78.2%	20.6%	1.0%	0.0%	0.1%

◎課題解決力も「思う」が増加している。講座を開催し、人に教えることにより課題を見つけ、解決する方法を導くことができるようになったためと考えられる。

3. 今回の学習を通じて新たな知識・技術を習得することができ自分のスキルアップにつながった

	思う	どちらかと言えば思う	どちらかと言えば思わない	思わない	未回答
平成30年度	68.5%	30.4%	1.1%	0.0%	0.0%
令和元年度	67.7%	30.8%	1.4%	0.1%	0.0%
令和2年度	83.7%	14.7%	0.7%	0.0%	0.9%

◎ほぼ全員の生徒が自己の成長を実感できている。人に教えるためには確実に知識や技術を身に付ける必要があるため、スキルアップにつながったと考えられる。

4 自分の将来の職業に対する意識が高まった

	思う	どちらかと言えば思う	どちらかと言えば思わない	思わない	未回答
平成30年度	33.1%	47.6%	16.1%	3.2%	0.0%
令和元年度	43.2%	45.3%	9.1%	2.4%	0.0%
令和2年度	63.3%	33.1%	2.2%	1.2%	0.3%

◎昨年度までと比較すると「思う」が増加している。実際に進路先は、福祉系大学への進学や介護職としての就職が昨年度と比較すると増加している。福祉の魅力やSPH事業の取組の中で実感したためと考えられる。

○実施上の問題点と今後の課題

- ・SPH研究事業の取組を今後に生かすために、事業内容を精選し、教育課程の中に組み込むなどして継続的な取組へとつなげていきたい。
- ・昨年度、福祉先進国への視察を実施し、参加した生徒だけではなく他の生徒へも、高い教育的効果を実感した。今後、海外研修を継続実施するために、大分県教育委員会や介護実習施設に協力を呼びかけ、実現させたい。
- ・SPH研究事業をとおして多くの関係機関（実習施設、大学、行政、小・中学校、地域）と連携した取組を実施することができた。今後は連携から連帯へと意識を変え、お互いがより強い協力関係を結び、「介護福祉人材の質の向上と量の確保」「福祉の魅力発信」につなげ、大分県における社会福祉リーダーの育成の拠点となるよう努めたい。